



(QRコード)

東日本大震災の被災地の人々のために、また想定される東海地震から自分たちの命を守るために、  
自らが今できることから始めませんか。

## 活気、呼び込めと…

## 1. 殖やす

放流予定 2,000 kg

「元気に育って欲しい。そして再び川に賑わいが戻ってくるように…」清流に躍る元気な姿を目で追いながら、思わず祈る気持ちで声をかけました。

昨年よりも2週間ほど早い3月30日、4月2日の両日、河口産稚鮎合わせて300kg(約85,000尾)を伊久美川20ヶ所へ分散放流しました。

次いで本流でも、3月11日(金)に発生した東日本大震災での福島原発事故に伴う「計画停電」を懸念して、人工ふ化稚鮎の早期放流を検討。下記のとおり伊久美川と同様に分散放流を行いました。

5月に予定されていた海産(馴致)放流は、5月10日～12日の上流部での集中豪雨により川が濁り、放流の諸条件が整わないため、延期しました。

6月以降の放流は、川の状況を見ながら種苗センターと調整等を行い実施していきます。

### 2011年放流計画

#### <実施済の放流>

月日	種別	数量(kg)	放流場所
3月30日	河口産	150	伊久美川(川口～中平)
4月2日	河口産	150	〃
4月6日	人工ふ化	100	〃
		200	本流(鍋島ほか)
4月8日	人工ふ化	300	本流(神座ほか)
4月13日	人工ふ化	280	本流(鍋島～相賀)
		20	大代川

#### <今後の予定>

月日	種別	数量(kg)	放流場所
6月上旬	海産	300	本流
〃	人工ふ化	300	本流
6月下旬	人工ふ化	100	伊久美川
〃	人工ふ化	100	本流

#### <その他の魚種>

ウナギ 1,000尾・ニジマス 5,000尾・アマゴ 6,000尾



#### <伊久美川>

河口産稚鮎と小川地先での放流  
(4月初旬)



#### <本流>

バケツリレーでの放流



#### 遡上は順調に

3月30日～4月8日までに採捕予定の530kgを終了しました。昨年は5月中旬まで採捕にかかっています。

「今年は例年と比べ遡上も早く、量も多くて

元気だったね」と採捕従事者の岡本さん。

順調に育てば今年は釣果が期待できそうです。





↑ 数十羽の群れで稚鮎を一網打尽にする川鵜

# Let's カワウ対策！

カワウによる食害は県全域に及び、解決は依然として困難な状況にあります。

放流期の川は夏と違って釣り人が少なく、防除が手薄になります。組合でもこの時期のこまめな対応として次の対策を行いましたが、時期や場所を限定しカワウを川から完全に追い出すのは非常に難しいのが現状です。

カワウは人がいる川にはなかなか近付いてきません。鮎シーズン前の遡上～放流期に多くの方が川を訪れ、鮎の成長を見守ることが更なるカワウ対策に繋がるのかもしれませんが。

- ① 4月12日、23日の午前2時間、3ヶ所各2名によるモニタリング調査
- ② 4月13日～22日（10日間）の県内一斉追払い
- ③ 伊久美川に防除テープ張り
- ④ 4月中旬、下旬の河川パトロールによる追払い
- ⑤ 4月20日～5月31日の期間、島田猟友会による猟銃駆除



↑ 猟銃により駆除された川鵜

今号は特に次の対策についてお知らせします。

### モニタリング調査

夜明けとともに捕食のため飛び立つカワウの統計調査として、4月12日・23日の早朝2時間（4:30～6:30）、上流・下流方向各1名3地点で『着水』『上空通過』の個体数を目視調査しました。結果は右表のとおりです。

確認した総数281羽、うち274羽が通過し上流方向に向かいました。3地点での調査の内、飛来数が一番多かったのは最下流の富士見橋でした。

地点	4月12日		4月23日	
	着水	通過	着水	通過
水路橋	2	18	0	23
新大井川橋	0	8	5	16
富士見橋	0	155	0	54
合計	2	181	5	93

→ 防鳥テープが舞う  
城山橋下流



### 防鳥テープ張り

今年初めて実施した対策です。4月19日に伊久美川（川口～中平）20ヶ所以上にわたり、テープを川面に張りました。カワウ飛来時の障害になるだけでなく、テープ数か所に付した銀色の短いヒラヒラが川面を渡る風に靡（なび）き、カワウに不快感を与えたに違いありません。

## 3. 伝える

### 河川情報、発信中！



最新情報のチェックには「RSS」ボタンが便利です！

組合ホームページも2年目。徐々に閲覧者も増え、大井川情報発信の場としての広がりを感じています。

今年は釣りファンの関心が高い釣果情報の充実をはかるため、一般投稿による紹介（レポート）コーナーを設けています。現在までもあまご釣果のご投稿があり、これからの鮎シーズンに向け期待が膨らむところです。

他にも組合活動・各種釣り大会のご案内・新しくなった鮎釣りマップなど最新情報を随時お知らせする予定です。また、営業時間外のお問い合わせにもメール対応していますので、ご意見ご質問の際にはぜひご活用ください。

# 3年間の新規加入者の実態

# 4. 新しい仲間

## 組合員資格審査委員会を通して検証

水産業協同組合法（水協法）の一部改正により平成 21 年度から資格審査を実施していますが、今回特に新規加入者についての 3 年間の実態を検証し、今後の組合員対策の参考にしたいと思います。

検証方法は、水協法及び定款に定める年齢・住所確認、漁業日数の 3 項目により実態を把握しました。

(H23. 5. 12 実施・承認)

### 1. 年次別加入数

年度	H21年	H22年	H23年	合計
加入数	22	33	39	94

この 3 年間、加入状況は年を追ってわずかに増加を示していますが、毎年脱退者数が新加入者数を上回り、全体として減少傾向が続いています。

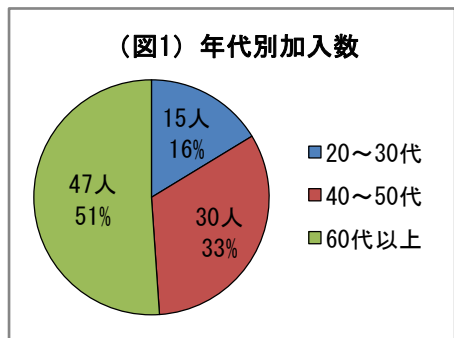
ちなみに過去 8 年間の新規加入者総数 1 3 9 人に対して脱退者総数は 4 4 2 人を数え、その落差は極めて大きいといえます。

### 2. 地区別加入数

地区	北川根	川根	伊久美	金谷	島田	大井川
入数	2	1	4	3	41	43

特に大井川地区（初倉・旧大井川町・藤枝）の増加が累計 43 人と最も多く次いで島田地区が 41 人と、この 2 地区が全体の 8 9 % を占めています。一方において、川根地区の加入が伸び悩んでいます。

### 3. 年代別構成

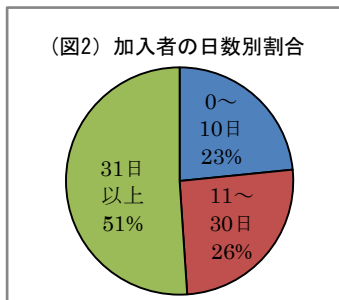


年代別加入数は（図 1）に示す通り 60 代以上が 47 人と加入者数の 51% を占めて最も多く、組合員の高齢化傾向を示

しています。次いで 40～50 代が 32 人（34%）となり、これに対して 20～30 代の若年層はわずかに 15 人（16%）と極めて少ないことがわかります。

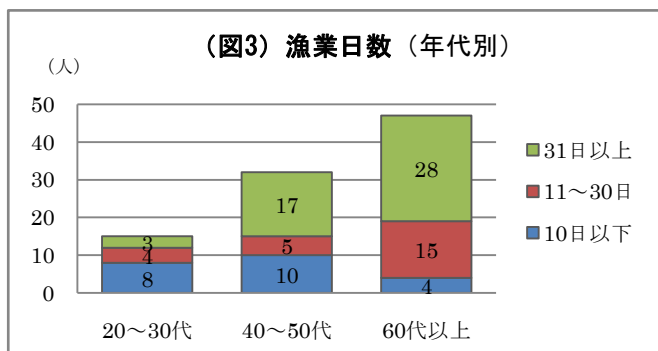
川は組合員によって支えられ、守られていると言っても過言ではありません。組合の将来を踏まえ、担い手となる若い世代の加入促進を図ることが今後の組合運営の重要な課題と考えられます。

### 4. 漁業日数



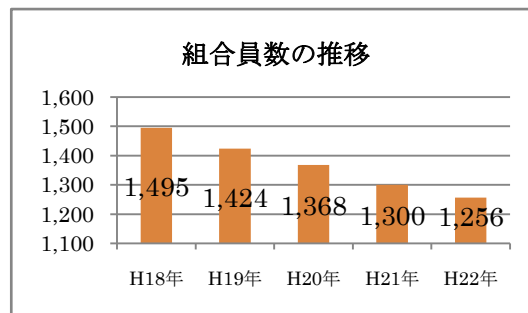
（図 2）に示す通り漁業日数は全体として年間 3 1 日以上が 4 8 人（51%）と半数を占め、これに対して 1 0 日以下が 2 2 人（23%）となっています。

また（図 3）の年代別では 60 代以上の 2 8 人が 3 0 日を上回っているが、20～50 代の現役世代では、1 0 日以下が 1 8 人（39%）と 4 割近くを占め、特に 20～30 代では 8 人と過半数を示しています。



### 参考 現組合員数の実態について

過去 5 年の組合員数の推移を見ますと、この 5 年間で 2 3 9 人と減少しており、平成 21 年の場合前年と対比して 6 8 人と脱退者が特に多いのが目立っています。





## お知らせ

平成 23 年度通常総代会において議決された主な事項をお知らせいたします。

### ①役員定数に変更となります。

(旧) 理事 13 人、監事 3 人

(改定後) 理事 11 人、監事 2 人 (△3 人)

### ②大井川町地区の名称が大井川地区に変更となりました。

### ③所属組合員数の増減に伴い、各地区総代の定数に変更となりました。

(旧) 北川根地区 8 人、川根地区 11 人、伊久美川地区 15 人、金谷地区 11 人、島田地区 40 人、大井川町地区 15 人

(改定後) 北川根地区 8 人、川根地区 12 人、伊久美川地区 13 人、金谷地区 11 人、島田地区 41 人、大井川地区 15 人

### ④役員改選（3 年任期）に伴う退任及び新任役員は次のとおりです。

(退任) 鍋島五郎 (伊久美川地区)、兵庫 等 (島田地区)  
山本善一 (学識経験)

(新任) 村上久雄 (島田地区)、景山勝治 (大井川地区)  
諸田 強 (学識経験)

### ④ 6 月 1 日解禁より鮎餌釣り区域・期間が一部拡大されます。

## 第 46 回地区対抗 鮎友釣競技大会 第 15 回関係会社親睦

(日時) 平成 23 年 7 月 9 日 (土)

(予備日) 7 月 16 日 (土)

(会場) 大井川本流 (予備会場 伊久美川)

各地区・会社 1 チーム 5 人の団体及び個人戦です。  
成績は釣果 (漁獲) の重量とします。

## 第 58 回県鮎友釣競技選手権大会

静岡県内水面漁業協同組合連合会が主催する県大会の開催日が決まりました。

<開催日> 平成 23 年 7 月 24 日 (日)

※予備日 7 月 31 日 (日)

<会 場> 気田川

浜松市天竜区春野町

共催：気田川漁協 ☎ 053-985-0211

(釣り情報) 053-985-0216



## 1～5 月 業務報告

- 1/18 大井川漁場管理運営協議会
- 26 監事会 (平成 22 年度下期会計監査・決算監査)
- 〃 企画運営会議
- 2/ 2 組合員資格審査委員会
- 4 あまご成育状況調査
- 8 河口産稚あゆ需給調整会議 (天竜川漁協)
- 9 役員推せん会議
- 15 あゆ種苗採捕申請書提出
- 24 第 1 回理事会
- 3/14 新漁協と県へ遊漁規則変更手続き打合せ
- 17 大井川砂利対策協議会協議会
- 19 通常総代会
- 23 第 2 回理事会
- 24 定款変更、行使規則変更認可申請
- 26 河口産稚鮎 30kg を焼津水産高校へ配給
- 〃 本支流河川状況調査
- 29 県内水面漁連通常総会
- 〃 県へ遊漁規則変更認可申請書の提出
- 4/ 8 河口産稚あゆ採捕終了 (採捕数量 530kg)
- 10 河口産稚あゆ 200kg を新大井川漁協へ配給
- 11 川鵜駆除申請書提出
- 12 県内一斉カワウモニタリング調査①
- 13 カワウ一斉追払い (4/13～22 の 10 日間)
- 16 カワウ防除河川パトロール (2 日間)
- 18 高熊地先に玉石還元 (トラック 72 台)
- 19 伊久美川へカワウ防除のテープ張り
- 20 有害鳥類駆除開始
- 23 県内一斉カワウモニタリング調査②
- 27 伊久美川魚道土砂排除工事実施 (重機 2 台)
- 〃 川口禁止区域の標示旗・横断幕設置
- 30 カワウ防除河川パトロール (2 日間)
- 5/12 組合員資格審査委員会 新加入者の審査
- 19 第 3 回理事会



## 編集後記

今号は特に『組合員問題』を取り上げました。組合員の減少は漁協経営が困難になるだけでなく、内水面漁業の趨勢 (すうせい) にも直結する恐れがあると考えます。私達が日頃抱えている課題が解決の方向に向かえば、自ずと組合員も増えてくるのではないのでしょうか。

中長期的視野に立って、諸問題の解決に向けて努力していききたいと思います。 (小林)